

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170202657		
法人名	株式会社ヴォルファート		
事業所名	グループホーム神根苑		
所在地	埼玉県川口市安行領根岸1260		
自己評価作成日	平成28年8月24日	評価結果市町村受理日	平成29年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 28年 9月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本、家庭の延長というもあり、あまり施設っぽくない様にイベントの時の写真を提示したり、季節感を出す為にその季節にあった創作物を入居者の皆様と一緒に作り、提示している。入居者個々の人格に寄り添ったケアに取り込む為に月1回の全体会議のあと、フロア会議として現状のケア方法の再検討・再確認を行っている。少しでも寄り添ったケアに繋げたい為、管理者が出勤の日には個々の所へ足を運び体調の変化や奥に秘めた思いを引き出せればと声掛けを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビング等共用部分は、清潔で、明るく、移動しやすい。植物を置いて、作品や写真などを飾り、利用者がくつろげる環境作りをしている。利用者は、好きなソファーや椅子に座ってテレビや新聞、DVDをみたり、趣味に興じる等、自分の時間をそれぞれ自由に過ごしている。毎朝、利用者一人ひとりに声をかけて会話をし、日々の健康状態と思いを把握するようにしている。家族へは、毎月の家族への文書に加え、状況に応じて、電話、メール等により、利用者の様子を報告し、同時に家族の思いも聴きながら、支援をしている。職員にも、日々声かけをして、話しやすい雰囲気をつくり、職員の心のケアと必要な指導や助言を行い、職員がひとつになって、理念の実現に向けて、支援ができるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念をエレベーターを下りてすぐの目につきやすい場所に提示。月1回の全体会議にて再確認している。	策定した理念を、職員一人ひとりがしっかり理解して、日々の支援で実践できるよう取り組んでいる。エレベーターホールでの掲示や全体会議での再確認、日々の指導助言等である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のお散歩時に挨拶をしたり、地域の行事(盆踊り)等に参加させて貰っています。町内会にも加入している。	町会に加入している。利用者の盆踊りへの参加や散歩時では、近隣の住民から挨拶の外に「風邪をひいていませんか」などの声をかけてもらっている。中学生吹奏楽の訪問演奏など、地域との絆を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所の介護保険課、生活福祉課、地域包括支援センター等からの相談を受け入れたり、入居希望者ご家族様からの相談を受けたり、内部見学して頂いてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6/16(木)に実施した。最近の取り組みや昼食を入居者様と一緒に摂取して頂いたり、年間行事に参加して頂いている。	会議のメンバーは、町会長や民生委員(3名)、地域包括支援センターである。会議では、活動状況や課題、外部評価、目標達成計画などの報告と指導、助言を受けている。また、利用者との食事の機会を設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、生活保護課地域包括支援センターと出来るだけ密に報告、連絡、相談をしている。グループホーム連絡会というのが年1回位、あるが参加。グループホーム協議会に参加している。	できるだけ、直接会って、報告や連絡、相談を行い、市との連携を深めるように心がけている。担当者の指導や助言を受ける外に、グループホーム連絡会への参加等を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアはスタッフ全員で統一した理解が出来ているが、危険防止の為、やむを得ない場合は、ご家族に了解を頂き、書面にも残している。	身体拘束をしない支援を目指している。このことについては、ユニット毎に、月1回カンファレンスを開催して、共通の理解を深めるとともに、職員が抱える課題等についても、みんな話合っている。これらを通じて、日々、拘束しない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の全体会議という職員全員が出席する会議で虐待防止の意識を統一させる為に内部研修をして再認識している。虐待は行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットなどを活用し、情報の提供、制度について理解を深めている。1名の入居者様に成年後見人の司法書士さんが付いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族と十分な時間を取り、重要事項説明書や契約書の内容に納得して頂き、質問、疑問に思う点は後日でも相談・質問等をお話頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設けており、来所が難しいご家族へは、電話やメールや文書を活用している。ご意見・ご相談には早急に対応している。	面会時や、電話やメールを使って、利用者の様子を報告する時に、個々の要望等を聴くようにしている。家族の意見を取り入れて、改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・フロアー会議・リーダー会議や日常にも出来るだけ意見交換が出来る様に心掛けている。いつでも管理者・フロアーリーダーに希望や意見や提案が伝えられる雰囲気作りにも努力している。	普段から職員へ、声かけをして、話しやすい雰囲気を作るようにしている。月1回行っている全体会議やカンファレンス、リーダー会議では、みんなが発言できるように配慮をし、意見等の実現に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・フロアーリーダーから意見を聞き、改善出来る点があれば実施し、常に職員の意見に耳を傾ける様に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修でのアドバイスや資料の提示をしており、仕事を始めてから介護職員初任者研修や介護福祉士や介護支援専門員(ケアマネージャー)の資格を取得する職員も増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援支援センターが主催するグループホーム連絡会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の時からご本人と出来るだけお会いして、状況を把握する様に心掛けている。事前調査を経て入居段階では、ある程度の信頼関係が生まれている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様に入居相談、入居前訪問の時より十分な話し合いをし、要望、ご本人が必要と感じたケアの対応や希望を含めて、入居前のケアプランに盛り込んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談、入居前訪問の時からご本人が出来そうな事、出来る事をご家族、ご本人と話し合いながら把握できる様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性を生かし、日常生活の中での家事をゆっくりと一緒に行っている。出来る事を続けていきながら、ご本人の役割に繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは出来るだけ密に、連絡を取り合いたいと考え、様々な情報提供、報告や相談をしている。面回数少ないご家族に対しては、文書、電話、メール等でのやりとりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご友人、ご近所だった方などが面会に訪問して下さり交流が出来ている。又、法事や外食等の外宿もご家族のご協力を得て支援している。	利用者や家族の意向を把握し、可能な限り、病院やホームセンターなどへ一緒に出かけている。紙ねんどや文房具、絵具等趣味の資材を購入している。家族の協力を得ながら関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わり方や各個人の集団性、好み等を把握した上で、細やかな見守り、声掛けを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後で、頻繁に連絡を取り合う事はほとんど無いのが現状だが、相談・報告等の連絡を頂いた時は丁寧に応じている。他施設に移られた方のご家族も退居後、一度挨拶に尋ねて下さる方もいらっしゃる、近況を報告して下さるご家族もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアの中で、ご本人と会話したり、傾聴に心掛け、その中から本心に当たる様な希望や意向を引き出す様に努めている。又、ご家族やご友人からの情報も併せて話題に反映させている。	毎朝、利用者一人ひとりに声をかけて話をし、日々の健康状態とおもいを把握するようにしている。家族からは、直接、もしくは電話、メール等により意向を聴いている。これらの情報を、利用者の支援に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前訪問させて頂き、生活歴とかを簡単に傾聴させて頂く。入居時には個人票の記入をお願いしており、今までの暮らしに関わる内容を把握出来る様な書式にしている。又、情報の不足に対してはその都度、関係者の方々より聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録、バイタル表の記入、申し送りノートという各階にあり、特別な事があった時に活用している。漏れが無い様にしている。それぞれの方への様子観察も充分に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	神根苑独自のアセスメント表を用い、スタッフ、フロアーリーダー(計画作成担当)と協働し合いながら十分なモニタリングを行い、ケアプランに生かしている。	見直しは、6ヶ月に1回行っている。記録は、家族がみても分かるように、分かりやすい文章にしている。モニタリングやケアプラン作成は、3ヶ月に1回行い、必要に応じて、随時、変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の生活記録記入にあたり、当日出勤のスタッフ全員が関わる事で、気づき等の幅が広がっている。記録により上がってきた情報はケアの内容に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門家病院の受診や外出、ご家族の宿泊等、様々の要望に対し、臨機応変、出来る限りの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の大きな催し物の活動の柱は、地域のボランティアさんの力を借りてる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、内科・歯科の往診がある。以前からかかりつけの医療機関に引き続き通院しても選択は自由だが、現状は、往診医にお願いしている方々ばかりになる。	在宅時からのかかりつけ医への通院は、家族対応となる。提携医の訪問診療は、内科・歯科ともに月2回である。また、必要に応じて、提携医と相談し、適切な受診が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携しており、月に2回の訪問がある。24時間体制で、相談、指示を受ける事が出来る。又、看護師と往診医の連絡も密に取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は各病院のソーシャルワーカーさんとの連絡を密にして情報を交換している。退院が可能になった場合は、速やかに受け入れが出来る様に体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各個々人の状況により、対応が全て異なる為、ターミナルの希望がある場合は、出来る事、出来ない事の詳細をご家族にきちんと説明し、納得して頂いた上での取り組みとなっている。	利用者と家族へは、入所時に、重度化した場合や終末期のあり方についての説明を行い、同意を得ている。また、入所後に、変化が、みられたときは、なるべく早い時期に、家族と医師、職員が話し合い、支援体制を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故に対しては、マニュアルに沿った緊急連絡を取る事になっている。 平成22年にAEDの設置も行い、スタッフの殆どが救命救急の講習を終えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防各署と協働し、訓練を行い、訓練後にスタッフ間でより良い避難誘導の方法を話し合っている。又、運営推進会議等でも、近隣への協力をお願いしている。スプリンクラー設置済み。	避難訓練は、年2回行っている。うち1回は、消防署の立会いのもと訓練を行い、必要な指導や助言を受けている。緊急時の協力については、運営推進会議や近隣の住民へ声かけを行い、協力体制づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の希望や訴えを尊重し、日常会話の中でも言葉の口調等に充分配慮している。又、トイレの声掛けや着替え等にも周りの状況をふまえたケアを心掛けている。	職員一人ひとりが、利用者の尊厳を大切にしてい、毎日の声かけや排泄・入浴等の支援にあたっている。また、管理者は、日々の支援の過程で、気がついたことがあれば、その場で、職員に指導や助言を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと話を聞く様に心掛けている。又、自分で決定するのが難しい事柄等に対しては、どちらかを選んで頂く様な方法を試みている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は、ほぼ決まった時間に摂っているが、その5は自室に横になっている方が居たり、気の合う人とお話したり自由である。入居者様の動きや気持ち等をスタッフサイドで感じる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後整容の声掛けをし、洗顔又はタオルで顔を拭いていたり、髪の毛を整える等の支援をしている。又、衣類の組み合わせ等にも気を配る様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭き・盛り付け・食器拭き等を無理ない様に行って頂いたり、誕生日会等では、ご本人の好みのスタッフ手作りデザートにしたりと気を配る様にしている。	お誕生会のお好み焼きの材料を利用者が考えながら切るなど、利用者ができる範囲で参加し、利用者と職員と一緒に作っている。また、年2回は、みんなに喜ばれる回転寿司等を食べに外へ出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理は、配達先の管理栄養士によるメニューで行っている。水分量はバイタル表へ記入している。個人に合わせた量を盛り付け、摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、個人のペースに合わせて見守り・介助を行っている。週1回の歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの自立が困難な方には、必要に応じて適声掛けをし、トイレ誘導・介助している。トイレの位置も分かりやすい様に表示し、ポータブルトイレの配置もご本人の使用しやすい場所に設置している。	食事の前後と食後2時間おきに排泄の声かけを行い、タイミングが合わなかったときは、間をおいて呼びかけをしている。排泄の様子を記録し、排泄の個性を把握して、排泄の自立に向けた支援に活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には、水分を多めに摂取して頂いたり、腹部マッサージをしている。便秘改善の為、定期的な服薬をしている方もいらっしゃる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴できる機会を沢山提供し、ご本人の希望に添える様にしている。入浴嫌いな方にも気分を変える様な声掛けでゆっくり1人ずつの入浴を行っている。	利用者は、週5回入浴ができる。可能な範囲で、入浴時間や一番風呂、しまい湯等の要望に対応している。石鹸やシャンプーは、自分のものを使うことができる。入浴嫌いな人へは、呼びかけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンが違う為、居室やホール・廊下ソファ等、好きな所で休息して頂いて。又、室温調整・調光・布団やシーツ干し等清潔保持を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースに常に最新の薬状を入れ、必要時に確認出来る様にしている。新しい薬が処方された時は、症状の変化を観察・記録している。又、バイタル表にも薬の情報を盛り込んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的には、散歩やドライブ・買い物等に行ったり、月単位で誕生日やイベント等を楽しんで頂いて。又、掃除機掛け・袋たたみ・洗濯物たたみ等個々の得意な事を役割として行って頂いて。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行ったり、季節に応じて外出するイベントに参加して頂いている。又、ご家族様と外出・外食・外泊等に行かれる方もいらっしゃる。	可能な範囲で、毎日、事業所の周辺等へ散歩に出かけている。利用者の要望を受け、近隣のホームセンターなどへ、紙ねんどや文房具、絵具等の資材を購入する為に、出かけている。また、家族や友人との外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームが仮払いして、後で、使った金額を請求している。買い物時にお財布をお渡しして自らお支払い出来る方は実施して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けるお手伝いをし、掛かって来た電話の取り次ぎをしている。ご自分で手紙を書く方は殆ど居ないが、地方のご家族や知人から届く手紙や葉書はご本人で保管して頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・玄関には季節に合った植物を置いたり、ホール・廊下には、季節に合わせた飾り物・工作物・イベントの写真等を貼りだしている。又、好みの画像が見える様にホールと廊下でDVDを流して、喜ばれている。	利用者がそれぞれに自分の時間を、自由に過ごしてもらいたいと考えている。このための環境作りをしている。明るく、ゆったりした空間には、ソファや椅子が配置され、利用者は、好きなところで、テレビや新聞、DVDをみる等、自分の時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下はソファや椅子があちこちに置いてあり、ご本人の好みの場所で自由な時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使用していた家具や巳の周りの品を出来る限り持ち込んで頂き、ご本人が落ち着ける様にしている。写真や飾り物等個性溢れる部屋になっている。	備え付けのものは、エアコンと洗面台である。危険物を除いて、持ち込みが可能である。使い慣れた家具や写真、自分の作品、テレビ、仏壇等が配置され、独自の居室をつくっている。	緊急時に備えて、夜間を想定した避難訓練を行い、避難方法や対応について、さらに、職員の理解を深めたいと考えている。実現をして、災害時の対応の強化を期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	他のフロアーへ遊びに行く時はスタッフ間の連携で、連絡・見守りを行い、自立した活動をして頂いている。又、ホーム内各箇所の分かりやすい表示・手すりやコール等、各個人に合わせ必要に応じて増設している。		